

たか、し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

図画工作の力

校長 加納 直樹

小学生の頃、図工が大好きな教科でした。何かを作るという約束はあるけれど、その中でなら自由な発想が認められ、思いのままに表現することができるところが自分には合っていたのだらうと思います。図工の先生がちょっと変わっていたおじいちゃんの先生で、おもしろくて、最初に説明した後は、「好きなように自分で考えて自由にやりなさい。」という指導でした。その先生から教わったことは何一つ憶えていませんが、図工の時間は楽しく、いくつかの作品は今でも思い出せます。

どうしてこんなことを思い出したかということ、先月26日から28日までの3日間、高井戸第四小学校で展覧会が開催されました。体育館に一步入るとそこは「宝石箱やああ!!!」まさに、今年の展覧会のテーマ「高四ワンダーランド」にふさわしく、普段はバスケットボールや跳び箱運動をしている体育館がワンダーランドという夢の世界に変わっていました。そこに展示されている子供たち一人一人の作品をよく見て回っていると、子供ガイドの高学年児童が作品について、丁寧に分かりやすく解説してくれるので、あっという間に時間が経ちました。

代表委員の児童が中心となって、子供たちみんなが考えた展覧会のスローガンは「クリエイティブ・ドリーム」…(僕たち私たちの夢を創り出そう!)というものでした。高四小の子供たちはそのスローガンの通りみんな張り切って創作活動に取り組んでいました。子供たちの作品を通して、どれだけ楽しんで、真剣に作り上げたかは、不思議と伝わってくるものです。芸術のうまい・下手は私たちにはわかりません。だから絶対に頑張った友達の作品に下手だなんて言うてはいけないと思っています。私はみんなの描いた絵に、創り上げた図工・家庭科の作品のどれも、夢があふれていて素敵だなどと思いました。図工や家庭科の得意な人も苦手な人も、自慢はしなくていいけれど、自分の作品をダメだなんて思わずに、楽しく作品作りをしてほしい。楽しんで、一生懸命作品作りに取り組めたら、それは世界に一つだけの素晴らしい作品です。

子供たちの作品には、その年代のその時期にしか表現することのできない何かがつまっています。自分が作った作品はいつか遠い未来、今を思い起こすきっかけとなるかもしれません。数多く作ることになる作品の中にひとつでも「ずっと残るもの」ができればすてきだと思います。田島先生の図工の時間は最高に楽しいです。これからも子供たちが楽しみつつ、残したいと思えるものが生まれるような図工の時間であってほしいと思っています。